

関係なく、すべて原布より白さが低下する。また、どの試料布の場合でも白さの低下度は、ふろの残り湯>水道水>ふろの残り湯+洗剤>水道水+洗剤の順に小さくなり、洗剤の有無に関係なく、ふろの残り湯を使った場合の方が、水道の水を用いたときより常に白さの低下度は大きい。

## B-21 皮脂よごれを含む水溶液による布の白さ低下

椋山女学園大家政 小林 重喜  
○山内 和子

1. わが国では、ふろの残り湯を使って、洗たくを行なう場合が比較的多い。

ところで、今日のように、合成繊維が広く被服類に利用されるようになると、ふろの残り湯に含まれるはずの皮脂よごれが、無視できなくなるのではないかと思われる。

それで、数種の合成繊維製白布に、ふろの残り湯を用いて洗たく操作を施し、布の白さがどのように変化するかを調べてみた。

2. 試料布：アセテート、テトロン、ナイロン、パイレン製の各平織で、前2者は蛍光増白処理されているもの。後2者は蛍光増白されていない。

試料水：水道水、ふろの残り湯およびこれらの各々に洗剤を加えたものの4種類。

実験条件：ラバード・オ・メーターを用い市販洗剤を濃度0.2%で使用、液温25°Cで20回洗たく、洗たく時間10分、すすぎは2分を3回、すすぎはすべて水道水を用いた。

試料布の白さ変化の判定：蛍光分光光度計により、380~700 m $\mu$ の反射率を測定し、Y値を求めて白さの変化を判定した。

3. どの試料液で洗たくした場合も、試料布の種類に